

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立内中原小学校）

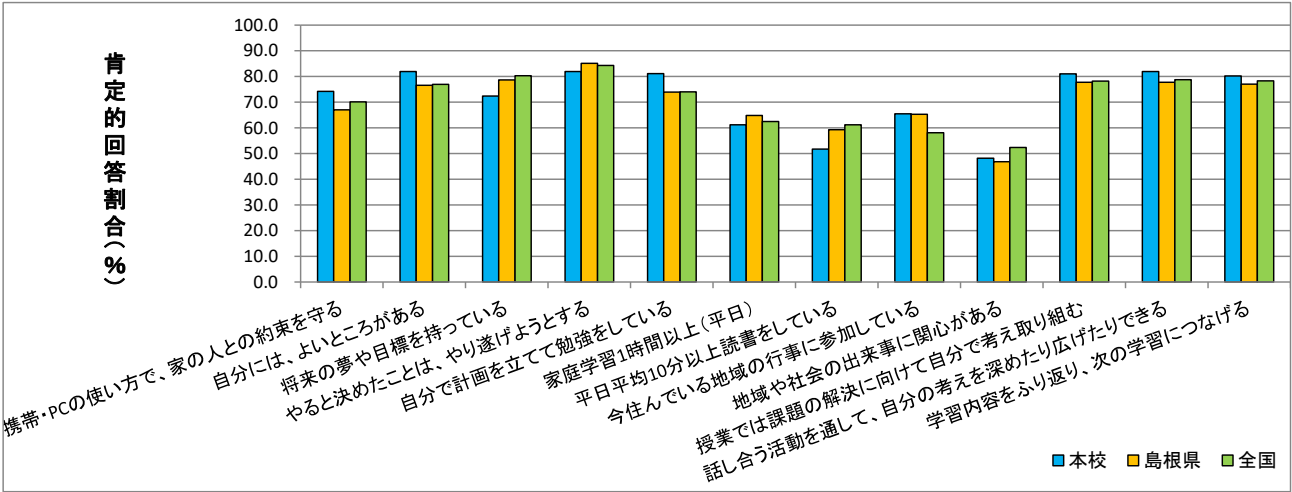
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対 策
国語	○どの領域においても、全国よりも平均正答率が高い。 ○5年時も今回も解答率の分布に2こぶ現象が起きていたが、当時よりも高得点に移動している。無解答率が低い。 ●目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける。文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率が低い。	・ペア対話や全体対話を中核にすえた対話型授業を進め、下位層も上位層もともに高め合うための学習課題の設定や授業展開の工夫を行っていく。 ・目的や意図によって簡単に書いたり詳しく書いたりする、自分の感想や意見と事実や引用とを分けて書くといった記述の仕方が身につくように、いろいろな条件に応じた記述の仕方を授業や家庭学習で取り入れる。
算数	○どの領域においても、全国よりも平均正答率が高い。 ○5年時も今回も解答率の分布に2こぶ現象が起きていたが、当時よりも高得点に移動している。 ●三角形の面積の求め方についての問題、データを二次元の表に分類整理する問題の正答率が低い。	・ペア対話や全体対話を中核にすえた対話型授業を進め、下位層も上位層もともに高め合うための学習課題の設定や授業展開の工夫を行っていく。 ・数学的な表現を用いて具体的な事柄を一般化して表す学習や、抽象的な事柄を具体的に表す学習を日常的に取り入れる。また、図形や数量の基礎的な概念を理解したり応用問題を解いたりする学習では、具体的な操作を取り入れ、学習する過程を通して理解が深まる工夫をする。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対 策
○携帯やパソコンの使い方の約束を守ったり、自分の良さに自信を持っていたり、計画的だったりする児童の割合が全国平均よりも高い。 ●将来の夢や目標をもったり、やると決めたことをやり遂げようとしたりする児童の割合と、家庭学習・読書の時間の割合が全国平均より低い。全体的に自己有用感や規範意識が全国平均より低い。	・学校図書館活用教育を継続して行う中で、読書に親しむ児童を育てる。 ・家庭学習の時間の割合が低いのに、回答率が全国平均より高いのは、主体性が育っているからと考えられるので、生活を計画的に過ごす指導をさらに充実させる。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)

